

## 入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の平成29年度第2回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

### 記

開催日時 平成29年8月18日（金） 14：00～15：40

会 場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

## 平成29年度 第2回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

### 1 会議名

平成29年度 第2回 北九州市入札等監視委員会

### 2 開催日時・会場

開催日時 平成29年8月18日(金) 14:00～15:40

会場 北九州市庁舎3階 特別会議室B

### 3 出席委員(五十音順)

上地 和久、菊池 裕子、中尾 美佐、松田 亨

### 4 議事

#### (1) 平成29年度第1四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

#### (2) 平成29年度第1四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、平成29年度第1四半期に契約をした工事の中から、上地委員が10件(契約課契約分9件、西部工事事務所契約分1件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) 一般競争入札によるとび土工工事で、予定価格が3億円超と高額だが、入札に2社しか参加していないため、工事内容も含めて詳しい入札状況を知りたい。

(答) JR黒崎駅自由通路ペDESTリアンデッキは老朽化が進んでいるため、平成25年から順次工事に着手し、平成30年に終了する予定である。今回の工事場所は駅に近接しているため、一般社団法人日本鉄道施設協会認定の工事管理者を配置しなければならないという条件があり、結果として2社しか入札に参加してこなかった。

(問) 一般競争入札による建築工事で、落札率が99.23%と非常に高いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 平成26年にスタートした小倉駅南北公共連絡通路の高天井工事で、数回に分けて工事を行っているが、今回はその4回目にあたる工事である。過去の工事の入札においても2,3社しか参加していない。理由としては、工事場所が駅に近く人通りが多いことなどにより手間がかかり、人気のない工事となっている。今回は当初7社が参加の意向を示していたが、結局入札したのは2社であり、落札率が高くなるという結果となった。

(問) 総合評価落札方式の結果は、評価値で決まるのか。

(答) 評価値は、入札金額に過去の工事成績等の評価点を加味したものであり、

評価値の高いところを落札業者とするのが、総合評価落札方式である。

(問) 評価点はどのくらいの期間で計算し直しているか。

(答) 工事ごとに評価点を計算している。評価項目は、過去の工事成績、過去の同種工事成績、ISOの認証、建設業労働災害防止協会への加入等、価格以外のいろいろな評価項目があるが、それを工事ごとに必要な項目を組み合わせで点数化しているのが評価点である。

(問) 業者は、自分の評価点を知っているのか。

(答) 事前にはわからない。事後は通知している。

(問) 業者は、評価項目を知っているのか。

(答) 項目は知っている。よって、自分のところの点数はある程度推測はできるが、他の業者との比較はできない。

(問) 業者は、過去の工事成績の点数はわかるのか。

(答) 工事が完了した時点で、成績は知らされている。

(問) 評価点の満点というのは何点なのか。

(答) 工事ごとに満点が何点なのかは決まってくる。工事内容によって、技術的に難易度の高い工事であり、しっかりとした施工が必要な場合には、技術評価を高い点数配分にして、価格よりも、技術の高いところが有利になる仕組みをとっている。

(問) 一般指名競争入札による管工事であるが、入札参加は1社のみである。同種案件では、8社参加していることもあり、その違いを含め、入札状況を詳しく知りたい。

(答) 応札は5社あったが、残りの4社は、当開札直前に手持ち工事が入り落直となったため、結果1社のみが応札になった。

(問) 落直とはどういう意味か。

(答) 落札直後に、同じ工種で同じ業者が指名されている案件があれば、後の案件についてはその業者の参加資格を取消するという条件を定めており、これにより資格を取消されることを落直という。

(問) 一般競争入札による土木工事だが、入札方法が合併入札となっている。合併入札の意味と、今回の工事が対象となった理由を知りたい。

(答) 今回は起工局が、市長部局である建設局と、企業局である上下水道局と違うものの、同じ工種、同じ場所であることから、合わせて1つの業者に発注したほうが価格的にも有利であることから、合併入札とした。

(問) 合併入札するにあたっての、横の連携は取れているものなのか。

(答) 一緒にした方が有利というのがわかる範囲では、連携して行っている。あくまで工種が一緒のものに限られている。

(問) 指名競争入札による電気工事だが、通常電気工事の場合1, 200万円以上は一般競争入札になると理解している。今回指名競争入札となった理由を知りたい。

(答) 今回の工事は、履行可能な業者が7社しかなかったため、一般競争入札にしても、指名競争入札にしても、この7社しか参加が見込まれなかった。よって、今回は、指名競争入札とした。

(問) 今回7社しか履行可能な業者がいなかったということだが、特殊な工事だったのか。

(答) 場所が会議場であり、高圧受配電設備に関する高度な知識と技能が必要となる特殊な工事であった。

(問) 指名競争入札による建築工事だが、通常トイレ工事は不調、もしくは落札率が非常に高くなるという認識であるが、今回は落札率が89.99%と低めであるため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) トイレ工事は、工種が多岐にわたることから携わる業者が多くなり、請負額のわりに元請業者の利益が出ないので人気のない工事である。しかし、今回は試みとしてプレキャスト工法を取り入れた発注としたため、落札率が低くなるという現象がおきたものと思われる。業者の意見を聞き取りするなどして、今後もこのプレキャスト方式を取り入れていくかを検討したい。

(問) 随意契約の電気工事であるが、随意契約としては落札率が低いと思われるので、その理由を知りたい。また、随意契約でも落札率がこのように低くなるのであれば、他の案件も低くできるのではないかと考えるがいかがか、併せて伺いたい。

(答) 特命随意契約では、契約の相手方となる業者から参考見積もりを取るが、内容を精査した上で予定価格を決めている。よって、その予定価格が高くなれば、今回のように落札率が下がることもあり得る。

(問) 指名競争入札の水道施設工事であるが、2社しか入札しておらず、落札率も93.25%と高いため、同種案件とともに、詳しい入札状況を知りたい。また「不断水分岐管設置工事」という工事名は、あまり聞かないので、どのような工事なのかも説明をお願いしたい。

(答) 普通の工事では管を取り替える際、一時水が止まるが、この工事は、水を止めずに行う水道工事である。特殊な工事のため、2社しか施工できる業者がない。よって、入札にはこの2社のみが参加している。

(問) 不断水分岐管設置工事は、どれ位あるのか。

(答) 稀である。普通の老朽管取替え工事は、主に夜間、各家庭にチラシを入れるなど周知したうえで断水をし、工事を行っている。

※ 次回の委員会は、平成29年11月17日(金)に開催することとなった。